

あつし塾長の 子のやる気 親の気づき

〇〇75

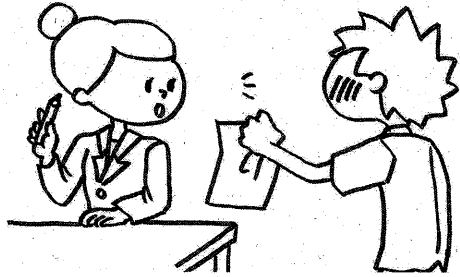


ある日、中2の男子が学校での出来事を教えてくれました。廊下を歩いていたら校長先生が擦れ違いざまに「頑張っているね」と褒めてくれたと。私が「良かったじゃないか」と言うと「え？そんなのビックリですよ。初めて話したんで

どうも...

すよ」と不満げな様子をあらわにしました。確かに、例えば街中で見ず知らずの人に褒められたとしたら、誰でも驚くばかりでしょう。褒め言葉が相手に伝わるには、やはり人間関係が前提でなくてはなりません。志学塾の「OK!学習法」の特長の一つに、毎時間一人一人の子どもたちと交わす会話の多さがあります。自律学習を実現するに

人と人を言葉でつなぐ



共通体験積み情緒豊かに

は、従来の教え込む授業中心ではなく、コミュニケーションを重視した指導法が必要だと考えるからです。そのために指導者は、勉学者の成績や志望校のみならず、生活の基盤や育ってきた背景をしっかり把握して教室に入ります。塾では、子どもたちが1分ずつ解いては教室後方の指導机まで進み、承認のほんこ(検印)を押ししてもらいます。自分の順番になると元気に「お願いします！」と言いつつ教材と自分で丸付けをした塾ノートを先生に見せま

ンバンと押しながら「よしよし間違ったね。丁寧な字だ」と間髪入れずに本気で褒めながら「どう？」とその子に尋ねます。夏期講習会最終日、私は入塾したばかりの中3男子を担当しました。ほんこを押しながら「どう？」と話しかけました。すると「何が、ですか？...」と口をへの字にして不機嫌な表情をしました。私は優しく「夏休みは、どう？」と続けました。すると「一瞬ハッとす。自分の順番になる」と元気に「お願いします！」と言いつつ教材と自分で丸付けをした塾ノートを先生に見せま

とき、子どもたちは笑顔で「(お陰様で)バツチリです！」などと返答します。しかし、入塾したばかりの子は、こういう大人とのやり取りに不慣れなことが多く、深く考えずに軽い気持ちで自分を出してしまつたのです。特にゆとり教育世代の子どもたちは「やりたくないことをやらせたが、ですか？...」と口をへの字にして不機嫌な表情をしました。私は優しく「夏休みは、どう？」と続けました。すると「一瞬ハッとす。自分の順番になる」と元気に「お願いします！」と言いつつ教材と自分で丸付けをした塾ノートを先生に見せま

子どもたちには毎回この言葉にドキッとします。その間柄を言葉でつなぐして、頭の中で思いをめぐらし、前回までの話し相手との「人間関係」の糸を手繰ります。相手と物事を円滑に進めるための「正解」を見つけられた

ヨンは単なる会話ではありません。人と人との間柄を言葉でつなぐして、頭の中で思いをめぐらし、前回までの話し相手との「人間関係」の糸を手繰ります。相手と物事を円滑に進めるための「正解」を見つけられた

子どもたちには毎回この言葉にドキッとします。その間柄を言葉でつなぐして、頭の中で思いをめぐらし、前回までの話し相手との「人間関係」の糸を手繰ります。相手と物事を円滑に進めるための「正解」を見つけられた



指導者と保護者
関東大会で試合
体育館

親子のセコ

わが子と一室場に入り、相家族とあいさし、ボクシングのようになで応援。勝しさのあまり、親の胸に飛びも。「親子の絆」が変わった柔人気が。 「スポーツ・キッズ小学生会」で2011年3年目。10年34人が参加度は約5600。

教育

水への恐怖心取り除く

地面から足が離れる鉄棒と同様、子どもは水泳にも大きな不安を抱えています。水中で足が着か

さん歩き。次に足を伸ばして「ワニさん歩き」へ移行します。手も伸ば

なるのがバタ足です。初は両手を持ってあげ、1〜2分先ま理なく泳がせます。せんが少しずつ後ろに伸びてあげ、距離を伸ばしていきます。皆さんの顔が見えよう上向きにしてあげ、背泳ぎの練習を